

平成 26 年度さのデイ事業計画

基本方針

- 1 個別ケアの充実。一人、一人心身の状態に合わせてそれぞれの居場所づくり、居心地のよい空間づくりを目指す。

現 状

1 平成 25 年度の実績

さの通所介護 通常規模施設 (1月 750 人以内)

さの 認知症デイ 1日 24 名

<月別利用者延数> 通所上段は実延べ人数 下段は予防及び 5-7 時間の換算数での実延べ人数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	計	平均
通所	812 661	840 685	779 635	897 731	861 703	817 666	905 734	848 690	850 691	805 659	8414 6855	841.4 685.5
稼働率 %	108 88.1	112 91.3	103 84.6	119 96.1	114 93.7	108 88.8	120 97.8	113 92.0	113 92.1	107 87.8		111 91.4
認知症	440	442	406	474	428	396	459	436	421	412	4314	431.4
稼働率 %	70.5	68.2	67.6	73.1	66.0	66.0	70.8	69.8	70.1	71.5		69.3

<要介護度状況> 平成 26 年 1 月までの比率 %

割合	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	平均 要介護度
通所	23.0	37.6	16.5	15.6	7.3	2.5
認知症	12.0	12.0	25.3	21.7	29.0	3.4

介護 予防 通所	要支援 1	要支援 2
	32.0	68.0

現状の問題点

- (1) 平成 25 年度は、通所介護利用者数が増加し、予防利用者と 5-7 時間の利用者を 0.75 人で換算した数字で何とか通常規模を維持できる数字となった。職員の居宅へのアプローチや利用者サービスの評価が成果に現れたと考える。
しかしながらご利用者のレベル低下、もしくは認知症状があっても登録が通所介護希望の方が多いう状況がみられ、ケアの幅は広がっている。入浴希望者や活動時のサポート量の増加等がみられ、個別ケアの充実が難しくなっている状況も出ている。
- (2) 認知症デイは定員の 24 名に近い状態の日もあれば、短期入所の定期利用や体調不良になる方も多く日によって利用人数に差があった。ここ最近では、1 対 1 での対応が必要な状況のご利用者が増えて職員が手薄になる場面もみられた。配置された職員数で充実したケアを行う為に活動室の環境整備や生活リハビリを充実させる等の工夫も行っているが、人数が 20 名を越えると通所介護同様に個別ケアが難しくなっている現状がある。

サービス課題（重点事業計画）

1. ご利用者への丁寧なサービス提供

1) 通所介護

① 提供時間の長短に合わせたニーズに応じたサービスの提供につとめる。

・楽しく安全な場所作り

軽度の認知症状があっても通所介護を選択されるご利用者への対応、ADLの低下により静養する時間の多いご利用者への対応など幅広いケアの提供のために安全で居心地の良いデイを目指す。

具体的対応)

- ・身体状況、また気分に応じて過ごせる場づくり
多様な活動の設定
のんびりできる落ち着いた空間の提供
- ・少人数でのプログラム（クラブ活動）
特に男性利用者のプログラムと空間づくりの工夫
麻雀・料理教室・昔の遊びなど
- ・個別面談を行い、リハビリの目標も自分で作る。
生活の中で必要な目標をリハビリ目標と一致させる。

② 予防通所介護の在り方について来年度改正に向けた情報取得に留意する

2) 認知症通所介護

① ご利用者の状態に合わせた幅のある活動の設定

- ・近隣の散歩等による外出機会
- ・地域との交流による感情の活性化（散歩・訪問園児、児童とのふれあい、谷中デイとの交流）
- ・積極的な家事活動の導入による役割や達成感の実現（洗濯板やほうきを使っての家事、手づくりおやつ・タオルたたみ・テーブル拭き等）
- ・親しみやすい昔遊びや簡単な楽器など、自分が参加できる活動による充実感の実現
- ・重度の認知症の方にも嬉しい・楽しいなどの感情に働きかける接し方の工夫
（職員の優しい声かけや心地よいと思うタッチングによるアプローチ）

2. 家族支援の強化

・連絡帳や送迎時のご家族からの情報をしっかり受け止め、投げかけられた内容に丁寧に対応していく。

特に認知症デイでは、ご利用者の参加の様子を表情や言動なども伝えていく。

上記の内容を居宅介護支援事業所の介護支援専門員にしっかり伝えながら、在宅生活のケアプランを作成する視点に活かせるような側面からの支援に努める。

3. 職員のスキルアップ

①職員の認知症への理解を促進する研修機会の設定、BPSDが顕著なご利用者の対応の情報共有を図り、よりよい支援ができるようになる。

②介護支援中の事故を起こさないよう職員の介護技術の向上のため職場内研修の実施
非常勤職員に対し常勤職員が講師になることで相互のスキルアップを図る。
緊急時の対応及び初期対応の研修。

③送迎ミス、連絡ミス、忘れ物など単純なミスでご利用者、ご家族に不安や迷惑をかけないようにダブルチェックの徹底とリスクマネジメントとしての苦情対応についての理解を深める。

④上記3点を含む課題解決に向け、正規・非正規が一緒に参加する少数グループで意見交換会を定期的に行い、職員間の情報の共有とコミュニケーションの活性化を図る。